



1月号

平成6年1月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会

君の心に響いたこと  
君の心が揺れたこと  
君とともに大切にしたい

心響いたことに  
心揺れたことに

足を止めて

見つめてほしい

めぐり来る時に流されることなく  
君のまわりを

君を温かく包む人を

そして

君自身を

今を精一杯生きる君が好きだから

君を愛しいと思うから

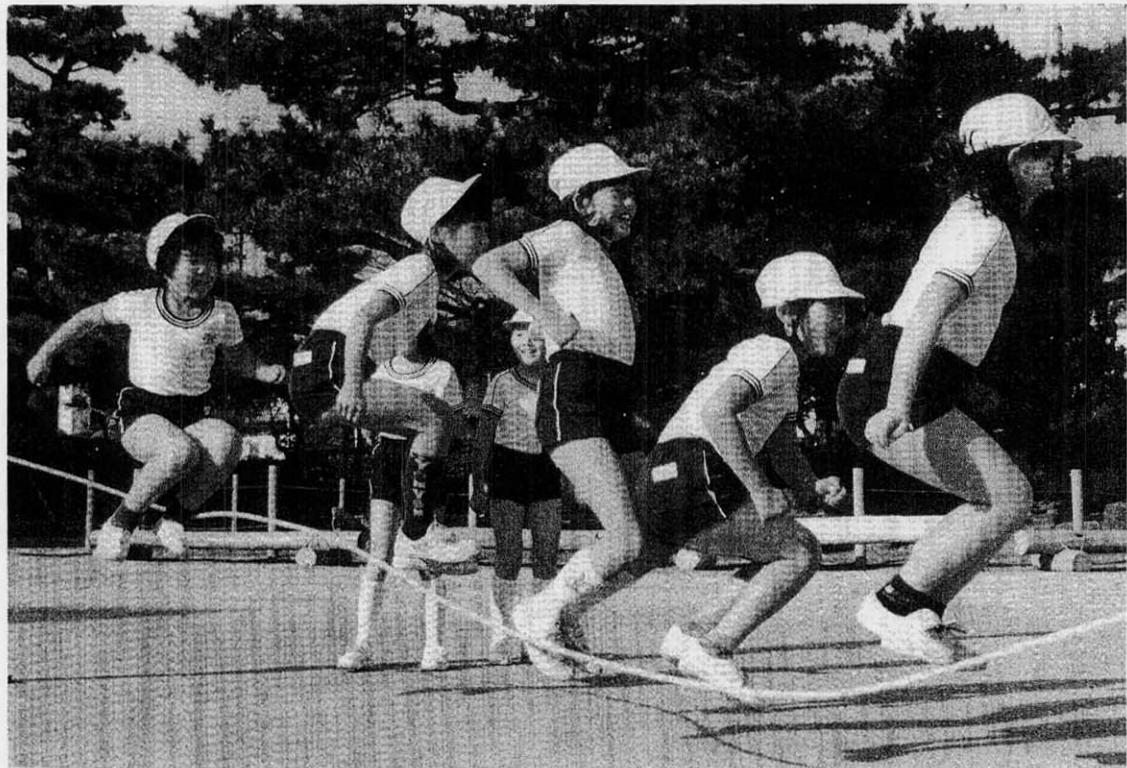
新しい時を

そして

今を

君とともに歩みたいから

（今　君とともに）



(ジャンプ - 福岡小)

## —教育隨想—



# 秘境の夏

(財) 服部植物研究所岡崎分室長

岩月 善之助



私の専門は植物の分類、特にこけ(蘚苔)植物の研究である。そのような職業柄、いろいろな環境に生育する植物を調査するため、これまでに世界各地を旅行する機会があつた。

一九七五年の夏のある日、私はアラスカの北極圏の山の中にあるアナクストーク・パスという山岳エスキモーの部落の小さな無舗装の滑走路に降りた。ニューヨーク植物園園長のステイラー博士夫妻と私ども、この部落は人口百人足らず、隣の部落まで百キロ以上、夏の交通は飛行機だけというまつたくの秘境で、北緯六十八度にあって樹木ではなく、ツンドラと草原の世界である。雪をいたなく峰々に囲まれ、部落を一步

出れば、赤、青、黄色の可憐な高山植物が咲き乱れ、ツンドラを流れる小川や湖にはたくさん魚が泳ぐ、秘境の原点のような美しい場所であった。ここはブルックスレインジという山岳地帯の峰にあたり、人々は春と秋に南北に移動するトナカイを狩猟して生活している。

このような秘境での調査の悩みの一つは、天候によつて、迎えの飛行機がなかなかやつてこないことがある。この時も三日ほど飛行機を待つ間に、白夜の七時ごろに、私たちの小屋にたずねてきた少年は、私の持ち物すべてに興味を示した。特に私がアンカレッジから持ってきたギネスブック(英語版)を見つけ、その本のい

る。「日本には生徒がいっぱいいるから、先生もいっぱいいるよ。」「いっぱいとはどのくらい?」「さあね、何万人もいるだろうね。」「ぼくはこの間アンカレッジへ行つて、歯の治療をしたんだよ。日本には歯医者さんは何人くらいいるの?」「日本にも歯医者さんはたくさんいるよ。」「何万人もいるだろうな。想像の範囲を超えた答えに、彼は叫んだ。「あなたはクレイジーだ」

その時、待ちに待つ飛行機が我々の頭上を旋回し、私は彼とともに大あわてで小屋に帰り、荷物をまとめて機上の人となつた。飛行機の上では機上の人となつた。飛行機の上では

私は、第二次世界大戦中、小学校

奥殿小学校長  
遠山 真吉



に在学し戦争終了とともに、卒業した年代である。私たちの頃は、今と違つて職員室などへ入るということはめったになかつたし、かりに先生に呼ばれて行くにしても、「手足が震える」ぐらい緊張したものだけ戻すようなニュースであつた。

(いわつきぜんのすけ)

「ぼくの学校には先生が一人と生徒が十二人いるんだよ。日本には先生は何人くらいいるの?」私は答えに困る。「日本には生徒がいっぱいいるから、先生もいっぱいいるよ。」「いっぱいとはどのくらい?」「さあね、何万人もいるだろうね。」「ぼくはこの間アンカレッジへ行つて、歯の治療をしたんだよ。日本には歯医者さんは何人くらいいるの?」「日本にも歯医者さんはたくさんいるよ。」「何万人もいるだろうな。想像の範囲を超えた答えに、彼は叫んだ。「あなたはクレイジーだ」

その時、待ちに待つ飛行機が我々の頭上を旋回し、私は彼とともに大あわてで小屋に帰り、荷物をまとめて機上の人となつた。飛行機の上では機上の人となつた。飛行機の上では

# ふるさとシリーズ この人に聞く



## 自然写真家

本若 博次 氏

自然写真、特に野鳥の写真を撮り続けてみえる本若博次さん。ご出身は石垣市。岡崎市には、五年前から住んでみえる。

野鳥の写真を撮り始めたきっかけをこう語られた。

「十八歳の時、石垣市で『自然展』という展覧会がありました。そこで係の人に、石垣の豊かな自然のことや、自然保護のことについて声をかけられたのがきっかけです。ちょうどそのころ、沖縄で、タンカーカーの廃液が自然破壊の問題になつている時で、環境を守るという

ことが、僕の場合、鳥を守ろうということになつて…」

今は、富士山などに出掛けられ、多くの野鳥の写真を撮るなど精力的に活動されている。一枚の写真を撮るのに、三、四年かかるという話を聞いて大変驚いた。

「鳥のコースを読むんです。そのためには何年も観察しなければいけませんね。自分自身を自然と同化させるんです。鳥の自然なしぐさや表情に出会えた瞬には、全身が震え、腰が抜けて動けなくなることもありますよ。」

見せていただいたイヌワシの写真。長期にわたる観察の結果得られた、数秒のシャッターチャンス。その迫力に我々は圧倒された。

今後は、岡崎市周辺の山の鳥の写真を撮り続けてみたいと言われる。

「岡崎市は鳥の種類も多いし、数も多いんです。特にカワセミは、青長年鳥たちを観察していますと、

突然建物が建つたり、河川敷の工事がつたりするだけで、鳥の生態が大きな変化を見せるんです。本来土手に巣をつくるカワセミも今では川から離れた所につくるん

うしたらしいか、お聞きした。  
「一羽でいいから、望遠鏡でじっくり観察させることです。ズメでもいいですよ。図鑑だけではダメですね。動いているからこそ、感動が得られるのです。」

究めた人の言葉である。

氏名 もとわか ひろじ  
生年月日 昭和二十九年十二月十七日  
住所 鴨田町山畔一ノ二七〇



ますて「先生に言いつけるぞ」の言葉が返ってきたものだった。そのくらい先生は、私たちにとって怖い存在であり、父母にとっては、尊敬し、大切にするという気風が強かつたのである。

戦後、ご承知のとおり学校の教室から教壇が取り除かれたことが象徴しているように、先生と生徒、父母との関係は徐々に変化し、今では先生に対する見方、考え方、随分変わってきた。極端な言い方かもしないが、先生と生徒の関係は対等に近いものになつてきている。外山滋比古先生の言われる「車間距離」がぐつと狭まってきたのである。

しかし、どのように教育制度が変わろうとも、教育は究極的には教師と生徒の間の人格と人格との触れ合を通じて行われるものである。それだけに、教師と生徒がどのような関係で学習が進められるかによって、その効果は極めて大きく異なつくる。

学習指導、生徒指導、各種行事などの見直し、研究も大切なことにはないが、生徒から、保護者からどのように見られているか、その関係はどうあるべきか考えることも大切なことである。

# 国際理解 — 今 おかざきでは —



▲ 交換した楽器で音楽集会 一愛宕小

本市における国際交流の幕開けは、一九七三年四月、美合小学校であり、カナダのウイニペック市J.C.キング小学校長の訪問から始まった。翌年には、カナダのグロスペナー小学校児童が本市を訪れ、次の年、美合小学校児童十八名が答礼訪問をした。続いて、連尺小学校でもカナダとの交流が始まった。

さらに一九八〇年、県下ではいち早く中学生の親善使節団が組織された。使節団の訪問先は、ウッデバラ市、ニューポートビーチ市、フフホト市と拡大されてきた。国際化の時代に対応し、岡崎の児童生徒に「広い視野に立って、郷土の発展を考えてほしい」の一念であった。

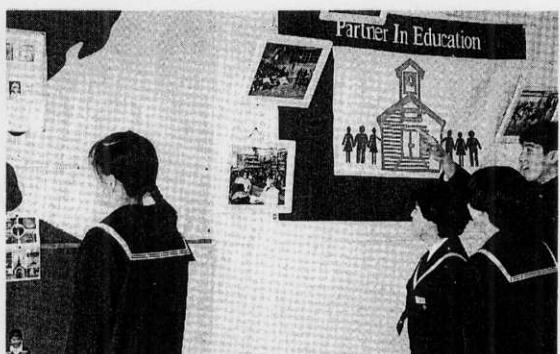
さて、人的交流に端を発した国際交流は、多様な形で各学校の国際理解に繋がった。国際理解教育は、それぞれの学校に応じた実践・創意工夫こそ重要であり、こうした着実な実践が「根づき・広がる」



▲ モハメドさんの講演会  
一福岡中一



▲ AETマイケル先生とすもうごっこ 一矢東小



▲ 手紙やカードの常設コーナー 一岩津中一



▲ 留学生を招いての交流会 一矢北中一



▲ 「光学級」での交流学習会 一大樹寺小一

学校	国際交流の内容（報告分）
羽根小	・「PTA文化活動(国際交流クラブ)」月2回、外国人の方を招き話を聞く会、話す会の開催。
三島小	・ロシア、インド、韓国の児童が在籍、校内に掲示コーナーを常設。
連尺小	・外国人学級の設置。
井田小	・「光学級」、毎週土曜日に実施、20~25名参加、学芸会に出演。
愛宕小	・インドネシアバリ島ブリアン小学校との手紙、作品交流。また交換した楽器で音楽集会を実施。
藤川小	・アメリカ合衆国、グレンダ・グリシン小学校との作品交流。
山中小	・知立東高校の留学生を招いて交流会を開催。 ・交流作品の掲示コーナーを常設。
奥殿小	・マレーシアなどの学校と手紙・作品交流。
大樹 寺小	・「光学級」、毎週土曜日に実施、20~25名参加。 120周年記念式、学芸会に出演。
大門小	・中国広州市珠玑路小学校とのクラブ活動交流において、手紙、児童作品の交流。
矢東小	・AETマイケル先生の訪問を定期的に実施。
南中	・外国人学級の設置。
城北中	・シンボル花壇をつくり、ニューポートビーチ市との交流。
福岡中	・外国人を講師に招き、講演会を定期的に実施。 ・日本赤十字で諸外国と交流。
常磐中	・ゆとりの時間に「グローバル・サーチング・スタディー」をテーマとして交流。
岩津中	・ホールに外国との文通の手紙やカードを常掲。
矢北中	・光ヶ丘高校姉妹校の留学生を招いて交流会を開催。 ・選択教科における海外文通を実施。



▲ クラブ活動で中国語の学習 一大門小一

国際交流」とも言える。教科学習の中で各国民・民族の文化を尊重する態度の育成、外国人との直接交流体験の場の設定、視聴覚教材を通しての異文化理解など、さまざまな交流が考えられてきている。調査の結果では、作品や手紙交流、外国人学級の開設、クラブ・選択教科での学習、留学生の招待、常設の掲示コーナー、さらにはPTA活動の中に位置づけた学校も出てきている。

おかげっ子が羽ばたく一  
十一世紀は、「国際社会」から「地球社会」へとさら  
に大きな一步を踏み出  
す時である。



▲ 外国人子女と掲示コーナー 一三島小一



▲ 児童作品交流 一奥殿小一

# ふれあい

## 選択制授業

美川中

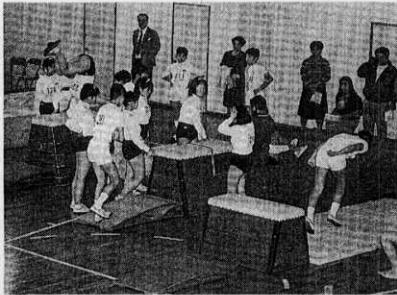
阿部 哲也

「先生、見て、見て。」

と、E子の声。  
「今日もA子と一緒に、顔を  
真っ赤にして『側方倒立回転  
とび』に挑戦である。

一時間目、全く感覚がつか  
めず、三段の『開脚とび』に  
挑むが、跳び越せない。この  
日、二段で終わる。多少肥満  
傾向の現れたE子にとつて精  
一杯なのかもしれない。

三時間目、E子はマットを使  
つて『側方倒立回転とび』  
の練習に夢中になっている。  
思えば、今年からこの器械  
運動を個々の子供の学習意欲



に合わせて「選択制」にした。

自ら選んだ種目であり、自ら  
計画した課題である。今、E子は苦手な器械運動で大き  
な飛躍を見せている。子供の  
伸びたいという力を信じた選

択制である。

いよいよ最終日。E子の

『側方倒立回転とび』は、快  
い踏み切り音を残して、大き  
な円弧を描いた。

「できた。やつた、やつた。」

パートナーのA子も、私も  
思わず拍手。

この日、E子の反省記録には、「私には遠かつた技がで  
きた。すごくうれしい。次は、  
跳び箱の高さをもつともっと  
高くしたい。」とあつた。

中三の夏でした。理科作品  
展に出品する「岡崎市の蝶」  
の研究について、夜遅くまで  
細部にわたるご指導をいただき  
ました。結局、その研究が  
最優秀賞を受賞することがで  
き、そこには蝶の研究に没頭  
していく自分がありました。

先生の教えは、絶えず「つ  
とめてやむな」の心でした。  
決して強く出るのではなく、  
子供の自主性を尊重し、その  
道を歩きやすいように手を打  
つてくださる温かさが基底に  
あつたように思います。中学  
生で、一つのことをやり遂げ  
る充実感を感じる人間に育て

つとめてやむな

葵中学校

杉坂 美典

ていたいた私は幸せでした。

今、教師として、あの時の  
自分と先生を重ねながら、一つのことに熱中する子供を育  
てたいと願うこのごろです。

心おどる感慨を覚えます。

私も暇に任せ、昭和五十五

年に君たちと選定した「岡崎の  
名木百本」巡りをしながら、  
山野を歩いています。時代の流れか、自然は大きく破壊の  
方向に歩んでいるようだ。思  
ことが多々あります。また、名木のある神社等には  
は当時見られなかつた遊園地を見かけますが、ここで遊ぶ  
子らの姿を殆んど見掛けませ  
ん。ましてや捕虫網を持って走り回っている子を見ること  
は全くありませんでした。こ

れも現代の子らが机上の知識

にはしり、生きぬく知恵に目  
を向けていないためか…。

心身共に健康な子を育てる

には、野外に学ぶ場を求める

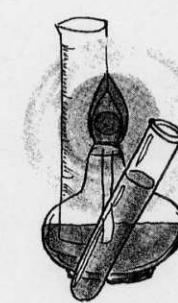
のが最良の道です。

三十年前の山野は四季折々  
にその美しさを競い合う姿が  
見られ、素晴らしいかったね。當時は君達と石ころ混じりの  
山野を捕虫網を持って駆けず  
り回り、一匹の蝶を捕まえた

瞬間の喜びは特別でしたね。

捕まえた蝶を一匹、一匹と

# 師弟同行



蝶と生きる杉坂君へ

西三河事務所

杉崎 利兵衛

蝶を追う

心のなごむ子供かな

三十年前の山野は四季折々  
にその美しさを競い合う姿が  
見られ、素晴らしいかったね。當時は君達と石ころ混じりの  
山野を捕虫網を持って駆けず  
り回り、一匹の蝶を捕まえた

瞬間の喜びは特別でしたね。

捕まえた蝶を一匹、一匹と

展翅し、出来上がった標本は  
最高の芸術作品でしたね。

今も、君がその当時の実践

を生かし、教育の現場で活躍

している姿を垣間みるにつけ  
心おどる感慨を覚えます。

私が暇に任せ、昭和五十五

年に君たちと選定した「岡崎の  
名木百本」巡りをしながら、  
山野を歩いています。時代の流れか、自然は大きく破壊の  
方向に歩んでいるようだ。思  
ことが多々あります。また、名木のある神社等には  
は当時見られなかつた遊園地を見かけますが、ここで遊ぶ  
子らの姿を殆んど見掛けませ  
ん。ましてや捕虫網を持って走り回っている子を見ること  
は全くありませんでした。こ

れも現代の子らが机上の知識

にはしり、生きぬく知恵に目  
を向けていないためか…。

心身共に健康な子を育てる

には、野外に学ぶ場を求める

のが最良の道です。

「率先垂範」、君のようないい  
先生が子供と共に、野外で学  
ぶことこそ重要なことです。

先生のご活躍を期待します。

お知らせ



### ◆ウェンデル

フィッシュ氏(八十二歳)

昭和五十七年、岡崎市の中学生一行がニューポートビーチ市を訪問以来、今年で十二年間、相互の青少年国際交流に貢献する。

### (団体)

### ◆岡崎「第九」を歌う会

三個人、二団体に教育文化賞  
第二十一回教育文化賞授賞式が去る十一月二十日に行われ、次の方々が受賞された。

### (個人)

◆嶋田 稔氏(六十二歳)

昭和六十二年、上地小学校長に就任と同時に、地域に根ざした開かれた学校づくりに着手する。以後、学校づくりと地域文化の創造・発展に尽力する。

### ▼連尺小に博報賞

昭和五十四年からの学校図書館教育が認められ、国語教育部門で同賞を受賞する。

◆岩月榮治氏(七十六歳)  
昭和二十七年、現在の郷土の岡崎」など刊行。社会科教育の基礎を築く。また家康研究でも知られ、その人物像を広く紹介、啓蒙に貢献する。

### ▼優良校

優秀 山中小

▼平成五年度愛知県学校体育優良校 東海中

### ◆岡崎市学校保健大会表彰

・岩瀬賞(体位優秀校)

小学校男子・恵田、女子・藤川中学校男子・常磐、女子・河合

・歯科医師会長賞

小学校男子・美合、三島、生平、常磐東、恵田、奥殿、大

樹寺、北野▽同女子・三島、生平、恵田、大樹寺、北野

生平、恵田、大樹寺、北野

同現職教育委員会社会科部

教材・郷土学習教材コンクール

・文部大臣賞(最優秀賞)

・社会科部門(「和算」)

岡崎市視聴覚ライブラリー、

同現職教育委員会社会科部

オコンテスト

・優秀賞 秦梨小、上地小

▼平成五年度全国小学生ビデオコンテスト

品展 品展

### ・特選

習字 永坂 武(城北中)  
图画 早川恵理子(河合中)

▼第四十三回 西三河中学校長距離競走大会

男子の部 優勝 萩中  
女子の部 ノ 竜海中

▼平成五年度愛知県中学校新人カヌー大会(カヤックシングル)  
優勝 城殿真代(新香山中)



きょうの緑のパトロール  
は四年生。朝の、凜とした  
清冽な空気を胸にハボタン  
の世話を続けます。  
かな心を育む活動です。



## 書きぞめ展

書写技能の向上を願つて、第一回書きぞめ展が昭和三十三年に、旧連尺小体育馆（現城北会館）で開催された。岡崎公園の倉庫から運んだパネルを用いて展示した。

手本は、愛知教育文化振興会の「かきぞめ手本」が用いられた。写真は、昭和三十六年用のものである。書きぞめ展開始当初は、毛筆作品だけを展示していたことが分かる。

硬筆作品が展示されるようになつたのは昭和四十年。現在のように小学校一・二年が

硬筆、小学校三年以上が毛筆となつたのは、昭和四十七年

からである。

途中、たつき百貨（康生通）で開かれたこともあつたが、昭和四十八年から岡崎市美術館へ会場が移り、展示点数も多くなつた。なお、平成六年は岡崎市美術館が改修工事のため、一月十五・十六日の二日間、連尺小体育馆で行われる。

本年で第三十七回を迎える書きぞめ展は、年ごとに作品のレベルが上がってきている。



竜城会館 藏

・表紙写真  
・表紙詩  
・カット

福岡 小学  
米村 平国  
亮正彦  
根石進

新学期が始まつて、久しぶりに教室が活気づいた。  
「家中で夜中に初詣でに行つたよ。」「書きぞめ、今年も金賞がもらえるかなあ。」「Mちゃん、うまいもんなあ。たまには違う人にして。宿題を提出する子供たちの声が弾む。いい年にするぞ。」

新学期が始まつて、久しぶりに教室内で第三十七回を迎える書きぞめ展は、年ごとに作品のレベルが上がってきている。

スズメと言えば、一昔前までは、よく見慣れた鳥であつたが、最近はあまり見かけなくなつたようだ。鳥だけに限らず、さまざまな動植物と共に存する

O A化、世界一級のこの国にして、コンピュータを指導できる教師は、僅かに三十パーセントの現状であると言う。子供たちの遊びにもコンピュータが席巻する時代である。教師の対応能力が問われる新年でもある。

「愛は地球を救う」というキヤッチフレーズがある。眞の国際化は正に人間愛であろう。異なる文化をもつた人々が仁愛の心で結ばれ、さらに、社会が取り立てて「国際化」と呼ばなくなつた時、国際化が人々の生活に定着する。子供たちには自然体の交流を望みたい。

# この本を

### \*「葉隠」の叡智

小池 喜明

¥ 600

### \*続ことばのご馳走

金平敬之助 東洋経済新報社

¥ 1000

### \*字幕のなかに人生

戸田奈津子

¥ 2000

### \*日本の教育

白水社

野原 明

¥ 620

### \*ぬくもりの人間学

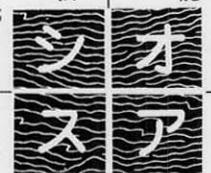
童門 冬二 東洋経済新報社

¥ 1400

今、企業環境はまさに戦国時代である。この危急存亡に際し、いかに知恵をふり絞るかが企業経営に問われている。

日本人の働く意識・特性は何か。組織の一員として一所懸命士気高揚を図るには何が大切か。本当の日本のリーダーの条件は何か。筆者は、歴史上の人物を例にとり「人間のぬくもり」を強調する。

人間的な経営の数々の情景描写のなかに人生訓・信条・モットーが紹介され、日本人づくりを見直す示唆も多い。



スズメと言えば、一昔前までは、よく見慣れた鳥であつたが、最近はあまり見かけなくなつたようだ。鳥だけに限らず、さまざまな動植物と共に存する大切な本若博次さんのお話を伺つて感じた。岡崎市には、まだまだ守るべき自然がいっぱいある。